

総合2025 気づきの先はいつも晴れ ～心にかかる霧を晴らそう～

第21回 12月4日(木)13:00～14:30

工芸から学んだ、これからの
生き方・働き方



奈良祐希氏
陶芸家・建築家

会場：津田塾大学小平キャンパス特別教室

<講師プロフィール>

1989年、金沢市生まれ。東京藝術大学美術学部建築科卒業、多治見市陶磁器意匠研究所卒業。東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻首席卒業。2021年よりEARTHEN主宰。建築と陶芸の融合を目指した陶芸代表作〈Bone Flower〉が金沢21世紀美術館、大林コレクション等に永久収蔵されている。建築分野では、2023年にデビュー作「Node Kanazawa」でAACA賞 芦原義信新人賞を史上最年少で受賞し、日本建築設計学会賞、グッドデザイン賞、日本空間デザイン賞銀賞、いしかわ景観賞、金沢都市美文化賞等を相次いで受賞。現在、国内外で10以上の建築プロジェクトが進行中。

<担当スタッフより>

皆さんは、日常の中でふと「なぜこうなっているんだろう」と感じる瞬間はありますか。忙しさの中で流れてしまいがちな小さな違和感やモヤモヤには、実は自分の考え方や価値観の源が隠れていることがあります。けれど、その違和感を形にしたり、新しい一歩へつなげたりするのは簡単ではありません。今回お話しいただく奈良祐希さんは、陶芸という伝統的な分野に建築の視点を重ね合わせるといふ独自の道を切り拓いてこられました。その背景には、「本当にこの形でいいのか」「別の可能性はないのか」という日常の“問い”を大切に続けた姿勢があります。奈良さんは、そうした小さな違和感を丁寧にすくい上げ、自分自身の表現として形にしてこられました。皆さんにも、奈良さんのお話を通して、自分の中にある“ぼやき”や“つぶやき”が、新しい気づきや可能性の種になることを感じてもらえたら嬉しいです。日常の中のモヤモヤが、自分の視野を広げる大切なきっかけになることに気づける時間になるとと思います。